

【配点】③ 1 各1点×12 ① 5 III ③ 2 各2点×9 ① 1・4 ② 3 各6点×3 ② 6・7 各8点×2 その他 各4点×9

1

1 ルールは自由を縛るもので、上から押しつけられるものであるという考え。

(同意可)

2 I 社会から見 II ルールを、

(完答)

3 I 他者の「自 II 多様な価値

4 市民社会の根本である自由を侵害してでもルールを至上と考えるのは市民社会で生きる力を損なうことになるから。

(同意可)

5 I 民主主義社 II (1) ルールを一 (2) ルールを共

(II 完答)

III X みんなの「 Y だから守ら Z みんなの合

2

1 ア 2 家を支える 立場(2 同意可)

3 志願した神驚としての名誉もなくなるし、死にたくないと思いつつながら死んでいったと知った遺族の悲しみが深くなると思った

(同意可)

4 ウ 5 島を守っていったわけじゃなかった

6 てちえ自
いをてらの命を
、人のが、賭し
ひのとた、実て
りのに際には島
人間しは、守
だ殺し生っ
と、きたく
気、命たい
づ命令と
いたに従い
た。わう
。さ気
れ持考

(同意可)

7 とてや「
だい道しか
とく義か
あたにもが
きめとない
らに、るい
め、こ「
る自とと
と分が
いであう
うはっ言
意どて葉
味うてもを
でし、
使よ、
っう現望
ても実ま
いなにぬ
るい生こ
。こきと

(同意可)

3

1 ① 複雑 ② 特技 ③ 用量 ④ 気配 ⑤ 定番
⑥ 敬愛 ⑦ 行商 ⑧ 言動 ⑨ 世間体 ⑩ 不採算

⑪ かぐら ⑫ かいどう

2 ① 体 ② 口 ③ 専 ④ 青 ⑤ 選 ⑥ 分

① 「誤解」の内容と考えてもよい。直前の段落の「ルールは自由を縛るもの・「ルールは上から『押しつけられるもの』」をさしている。

2 「実は」という言い方からもわかるように、続く部分を読んでいくのがよい。「そして何より問題なのは」の前後にひとつずつ見出せるだろう。

3 I 傍線部と次の段落を合わせると、「多様性のある社会」では、「多様な人たちの価値観を（ ）一つにまとめてしまうことなんてできません」という認識が導かれる。そこで大事になることを探したいので、この認識からの当然の帰結を探せばよいだろう。「だから、……」これを、わたしたちは近代社会の大原則としているのです」とあるので、「……」部分をぬき出せばよい。

II Iを言いかえれば、「お互いにその『自由』を認め合うこと」であり、そのために必要なのは「できるだけみんなが納得できるルールを、共につくり合うこと」である。それを問いの指定の形に合わせて言いかえると、続く箇所「市民社会とは……社会にはかならない」とあるので、「……」部分が内容の中心になるだろう。

4 「くと言え」というような「評価」の理由を問われたときは、基本的には「言いかえ」が必要である。「いついかなる時もルールに従う」は『規則を守る』を金科玉条の価値として掲げる」に対応しているだろうと考えると、答えがつくりやすい。あとは、それがいかに「非道徳的」であるかを説明すればよい。「市民社会ではルールを共につくり合う」という内容に反していることを説明していけばよいだろう。

5 I 基本的な定義の確認である。筆者が述べ添えていたところがあつたので、そこを見落としていなければすぐに見つかる。

II 「教育」である以上、「育つ」、すなわち「変化」があるはずである。設問の問い方にも「く存在」とあるので、これも探すこと自体は容易だろう。

III 「今言ったことこそ」とあるので、まずは直前を見て内容をとらえておくことよい。ただし、この設問では、市民社会の多様性をふまえてくわしく説明している箇所が後半にあり、「ルールの本質をこのような仕方です」が必要があるので「と締めくくられている段落からぬき出していけばよい」。

②

1 実際の葬式のときは泣いていなかったのに、この場面では涙を流しているのである。この場面の特殊性を考えてみると、じゃーじゃが言いだしたように、「非国民と言われてもしかたがないこと」なのかもしれないが、思いを共有した家族くらいしかいない場であったため、言いにくい・出しにくい本心を表すことができる場であったということである。ありがちなことを書いているだけこの場にそぐわない選択肢を選ばないようにしたい。

2 「戸主」という言葉や、同じような境遇の同僚の話から考えるとよい。「大黒柱」という言葉も出てきていた。

3 やはりひとまとまりの「」の中は読んでから考えたい。「そうとしか書けない」し、もっと大切なことは「残されたものはどんなに悲しいかと思った」ということである。では、「志願しました、勇んでいきました」と言わないことによって「残されたものの悲しみが増す」とはどうしてかと考えを進める。大切な家族が望まない特攻を命じられたら、残されたものはどう感じると考えられるだろうか。

4 「三万円の棺桶を壊しちゃったよ」という言葉から考えて、「三万円の棺桶」＝「飛行機」であることはわかる。上官の言葉なので、国のために戦死することは名誉だという前提で考えると、多くの血税で作った飛行機で敵中に飛び込んで戦死することをいっただろう。

5 「島に被害を与えないようにしてくれただ」というマチジョーの言葉に対し、「それはちよつとちがうかもしれない」と言うて付け加えた説明が「敵機に見えにくい」ということなのである。「それはちよつとちがう」とはどういうことか考えると答えを探しやすい。問いに対する答えであることを意識するというのは、発話の意図を汲み取れるかどうかということである。

6 「神さま」が「島（国・自分たち）を守ってくれる存在」であることは必ずおさえる。その上で、変化後について突っ込んで考えてみてほしい。単に「失望した」というような形がそぐわないということに気付けるようになりたいのである。そのためには、「マチジョー」の人柄として素直で冷静な子どもであることなどはおさえておきたいし、西島伍長の人柄をふまえて、マチジョーが西島伍長にマイナスの感情を抱いていないことは読み取ってほしい。「生きてよかった」と思う点では、「神さま」だと思っていた西島伍長も同じだったのである。「そうつぶやいた」の指示内容であるから、「こもふまえられるとよりよい答えになる」。

7 「この言葉」が「しかたがない」であることは読み取り損ねないでほしい。続く部分にいつ聞いたかが書いてあり、特に印象的なのが「（カミの）あま」が「特攻戦死したイチミの町葬の日」「何度もこの言葉をくりかえした」ときであり、「子や夫を戦争で亡くしてさえ、そう言ってあきらめてきた」とある。自分の力ではどうしようもないように感じられたとき、自分にそのことの一端があると考えのではなく、あきらめるとき言葉なのである。

③

1 ①は字形に注意。「複」はころもへんである。②「技」とわかっているのに「枝」と書いてしまうような不注意には最大の注意を払えるようになること。③は同音異義語に注意しよう。⑦・⑧・⑩などは語句としての難度がやや高いので、日頃からさまざまな言葉を身につけていこう。

2 非常に基本的な四字熟語の知識であるが、間違えやすい漢字の部分ばかりが問題になっている。このレベルでちよつとでも迷ったという場合は（正解・不正解に関わらず）、定着度を上げていくための語句の取り組みに力を入れていくべきである。